

信仰深い人たちに支えられて

この人々はみな、その信仰によってあかしされましたが、約束されたものは得ませんでした。神は私たちのために、さらにすぐれたものをあらかじめ用意しておられたので、彼らが私たちと別に全うされるということはなかったのです。

2013 年 5 月 27 日～6 月 2 日

編集 岩田欣三

祈り 歴史に働かれる神。あなた様の御前に私は跪きます。私たちの前を歩いた信仰深い人々に感謝いたします。私たちが祝福されているとともに、私たちも人々を祝福できますように。

編集者 スティーブン・S・レムリー

御茶の水キリストの教会

5月28日(火)

私たちはどこに行くのでしょうか？

聖書朗読 ヨハネ 14:1～7

信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。

ヘブル 11:8

私たちがカリフォルニアからテキサスへ引っ越してからずっとカリフォルニアの友人は私たちに「どうして引っ越してしまったの？」と尋ねます。一方テキサスの友人は「どうしてもっと早く引っ越してこなかったの？」と尋ねます。カリフォルニアに住んだことのない友人にとっては、カリフォルニアに住みたいと思う教養のあるクリスチャンはいないと思っているのかもしれませんが。テキサスに住んだことのない友人は、ヤシの木と太平洋から離れるなんてどんな理由があっても許されないと思っているのかもしれませんが。住んだことのない土地に良いところを見つけるのは両方の友達にとって難しいことのようにです。

イエス様は心を騒がさないよう群衆を励まし、これから行くべき所についてお話になりました。イエス様は、イエス様とともに住む天国の住まいについてお話になりました。群衆たちは一度も天国に行ったことがないので、そこがどのような所かよくわかりませんでした。しかし、イエス様はその天国から来られていること、そして暮したことのない天国に対する理解を深め、天国が我が家にいるような場所であるとわかるように群衆たちにお話になりました。

イエス様は天国から来られ、天国がどのような場所であるかを、イエス様が私たちをそこに連れて行ってくださることを教えてください。イエス様は真実を知っておられる御方ですから、どこに行くのかと不安を感じている私たちの心を静めてくださいます。

讃美歌 486

祈り 創造主。救い主。私たちの行く先についての素晴らしい希望の賜物を心より感謝いたします。どんなに些細なことでもあなた様を信じます。そして今日、親愛なる主が私たちの心を開き、希望を見出せない人々のお手伝いができますように。

イエス様の御名によって。アーメン。

編集者 エミリー・Y・レムリー

5月29日(水)

祝福のために呼ばれる

聖書朗読 創世記 12:1～5

まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみ実です。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。

ヨハネ 12:24

神の使命は教会から始まっているわけではありません。イエス様の死、埋葬、復活、そしてまた誕生によって始まったわけではありません。神の使命は創世記12章から始まっています。聖書の素晴らしい創世 神話の中、全てがうまくいっていました。罪が神の完全なる創造物を傷つけるまでは……。創世記3～11章では、人間がいかに罪深いかかわかる卑しむべき話が語られています。しかし、神は人間を見捨てることとなることなく、アブラハムとサラを通して贖いの使命を始められました。全ての子孫が彼らを通して祝福されるよう、彼らに信仰の旅を命じられました。

アブラハムの祝福はイエス様が現れたことで終わることはありませんでした。イエス様は真の救いをもたらされました。しかし、神は子孫の祝福のために神の人々を呼び、そして送る、この話はいまだ私たちを通して続いています。十字架の力と内なる聖霊を通して、私たちが日々直面する全てのものを祝福するために、私たちは信仰の旅へ出るように呼ばれています。アブラハムのように、私たちは間違い、罪を犯しています。しかし、神は私たちを通して神の御業を続けてくださっています。アブラハムが国民の父、信仰のお手本となったのは信仰の旅をしているときでした。あなたが神の使命を受け入れるのなら、まだこの世に誕生していない人々は救いによって祝福されます。

讃美歌 第二編 36

祈り 贈り主の神。あなた様の使命を聞き、私たちが与えられているものを受け入れ、喜んであなたを知らない人々に分け与えることができますように。周りの人々を祝福することができますように、私たちがあなた様のもとに呼ばれていることを受け入れることができますようにお導き下さい。

イエス様の御名によって。アーメン。

アール・L・ラベンダー

テネシー州 ブレントウッド

5月30日(木)

頂に登る

聖書朗読 創世記 22:8～14

アブラハムは答えた。「イサク。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。」こうしてふたりはいっしょに歩き続けた。 創世記 22:8

聖書の初めの書である創世記の半分も行かないうちに、私たちは旧約聖書の「頂」22章に来ます。ここでは、神様は歴史の要の前兆——神様が歴史の中でなさろうとしていること——を私たちに見せてくださっています。

『あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして私があなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。』(創世記22:2)

アブラハムがイサクそして二人の奴隷を連れてモリヤへ3日間かけて歩いている間、彼の心は張り裂けそうだったに違いありません。最も辛い瞬間は、彼らが頂に着き、イサクが『火とたきぎはありますが、全焼のいけにえのための羊は、どこにあるのですか。』(22:7)と尋ねた時だったのではないのでしょうか。

イサクの問に対するアブラハムの答えの中で、創世記20:9で預言者と呼ばれたアブラハムは歴史上最も偉大な真実の預言をしました。アブラハムは答えました。『イサク。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。』2000年後、「神様自身が」罪のための唯一の真実のいけにえ——神の子羊(ヨハネ1:29)、イエス・キリスト、我が救い主をお捧げになりました。歴史の頂きの上に見える光、それはなんと素晴らしいのでしょうか！

讃美歌 第二編 184

祈り 聖なるお父様。あなた様を賛美いたします。この世の罪を取り去ってくださる子羊に感謝いたします。イエス様が私たちにしてくださったことに値する立派な人生が送れますように。

ビル・ヘネガー

カリフォルニア州 ウェストレイクビレッジ

5月31日(金)

信頼の力

聖書朗読 創世記 39:3～6

それでヨセフは主人にことのほか愛され、主人は彼を側近の者とし、その家を管理させ、彼の全財産をヨセフの手にゆだねた。 創世記 39:4

数年前、ギャラップ調査(世論調査)が1万人を対象に行われました。それは、あなたがリーダーに求めるものは？ というものでした。答えは満場一致で「信頼」でした。ヨセフはエジプトのポティファルのもとへ奴隷として売られましたが、ポティファルの全財産をゆだねられるほど彼の信頼を得ました。ポティファルが近くにいないときでもヨセフは彼に忠実でした。ポティファルの妻が彼を誘惑しようとしたときでさえも。後に、ヨセフが牢獄に入れられた時も、監獄にいる囚人の信頼を得ました。

信頼は私たちの人間関係において、成功を収めるために極めて重要なものです。この世の中、自分より弱い立場の人に敬意を示すとき、私たちは信頼を得ます。スティーブン・コヴィーはこれを「ウェイター・ルール」と呼びました。レストランでのウェイターへの対応を見ればその人のことがよくわかります。

間違えたとき、間違いを認めるとき、犯してしまった間違いをただそうと動いたとき、私たちは信頼を得ます。コヴィーが言うように、「問題は、間違いをすることかどうかではなく、間違いにどう対処するかだ」。私たちは交わした約束を守った時、周りから信頼を得ます。私たちが信頼を得ることによって、ヨセフにしてくださったように、神様は御心が成就するために私たちを通してお働きになられることができます。

讃美歌 第二編 97

祈り 主よ。御国で行われるように、この地でも私たちを通して御心を行うことができるよう、私たちを他人に信頼される人にならせてください。

デイブ・ブランド

テネシー州 メンフィス

6月1日（土）

私の民を行かせなさい

聖書朗読 出エジプト記 3:14

「わたしはあるという方が、私をあなたがたのところに遣わされた。」

出エジプト記 3:14

私たちは何度もモーセのようになります。神様が私たちに望んでおられることを私たちは知っています。でも、私たちにはそれをやる自信がないのです。モーセは多くの言い訳をしました。パロのもとに行く私は何者なのでしょう？ 私を遣わした人は誰なのかと聞かれたら何と誰と答えたらよいのでしょうか？ もし彼らが聞いてくれなかったら？ 私は口がうまくありません。誰か他の人を送ってください。

聞いたことのある言葉です。主はおっしゃいました。『全ての民をわたしの弟子にしなさい。』でも主よ、隣人のもとに行く私は誰ですか？ もし彼らが聞いてくれなかったら？ 私は上手に聖書の説明ができません。主よ、どうか他の人に頼んでください。

モーセへの神の答えは抗し難いものです。『わたしはあなたとともにいる。』『私があなたを遣わすのだ。』モーセ、あなたができることをしなさい。そしてできないことは私に残しなさい。あなたはこの仕事のために私がえらんだ者だ。さあ、やりなさい。

パロがモーセをその場で殺すかもしれない状況だったにもかかわらず、彼は自身の命を神の手に委ねました。しかし、私たちはそのような恐れを持つ必要はありません。友人を教会に誘ったから、聖書クラスに行きたいかどうかを尋ねたからと言ってひどい目に遭った人がどれくらいいましたか？ あなたの勇気を奮い立たせ、声を出して隣人を招待しましょう。神様はあなたとともにおられます！

讃美歌 第二編 174

祈り 神様。あなた様が望んでおられる事——隣人に手を差し伸べる——ができるよう私に勇気をお与えください。

スタッフオード・ノース
オクラホマ州 エドモンド

6月2日（日）

至る所にカエルが！

聖書朗読 出エジプト記 8:1～10

かえるがナイルに群がり、上って来て、あなたの家に入る。あなたの寝室に、あなたの寝台に、あなたの家臣の家に、あなたの民の中に、あなたのかまどに、あなたのこね鉢に、入る。
出エジプト記 8:3

この何年もの間に、あらゆる種類（あひる、亀、七面鳥、蛇、牛、ナマズ、犬、猫）がペットとして飼われていました。その中には飼い主と一緒にベッドに寝るものもいるでしょう。かわいいカエルもいます。そしてカエルが跳ぶのを見るのが楽しかったりもします。でも、あなたのベッドの上に何千匹ものカエルがいるのを、食事として出てくるのを、オープンの中にいるのを、キッチンのカウンターの上であふれかえっているのを想像できますか？ 私は無理です！

カリフォルニアの砂漠の町に住んでいたころ、カエルではないけれど、聖書の中のような状況になったことがありました。めったに降らない雨が降ったあと、何百万ものコオロギが一斉に孵化してしまったのです。町はコオロギであふれました。フロントガラスはコオロギで覆われ、車は道路の上のコオロギ達をザクザク踏みつけて走りました。会社や家はコオロギが寄ってこないように照明やネオンを消しました。コオロギが発する音はうるさく、絶え間なく聞こえました。コオロギ達は、歓迎されていない所まで侵入してきました。私たちはコオロギが家に入ってきたように、ダッシュして家の中に入るようになりました。

パロの心は非常に頑なだったにちがいません。主はパロの地にカエルを大発生させるまで屈しませんでした。私たちはたった一匹のコオロギがでた時点で、神の要求に屈したいものです。

日々のお祈りで、パロの様な頑なな心ではなく、優しい心を持ち続けられるよう神様に祈りましょう。そして、隣人に手を差し伸べ、隣人の話を聞けるよういつも備えていましょう。

讃美歌 第二編 172

祈り 親愛なる主。あなた様の優しい御手で私の心が頑なにならないよう、あなた様の御言葉を受け入れられるようどうかお導ください。

イエス様の御名によって。アーメン。

スー・サム

カリフォルニア州 アンテロープ